

財団法人日本中国国際教育交流協会

会報 NO.8 (改題)

2010.4.28

# 共生力

HP: <http://www3.ocn.ne.jp/~koryu/>

Tel:03-3222-4190 Fax:03-3222-4199

〒102-0073 東京都千代田区九段北 1-3-9 第2太陽ビル 3F

発行人: 黒田文男

を考えていく際には配慮に値する」と述べました。また、これからは、ハードパワー(軍事)の時代ではなく、ソフトパワー(外交)の時代になる。そのため、大衆の前で穏やかに話ができる能力が必要とされる、など興味深い話をされました。

[http://chn.ceaie.edu.cn/html/content\\_1630\\_i\\_167.html](http://chn.ceaie.edu.cn/html/content_1630_i_167.html)



宋慶齡女史の絵画の前で協議する 右は李曉峰副主任

## 宋慶齡基金会・中国教育国際交流協会と会談

### 第15次訪中団を熱烈歓迎します!

2010年3月5日、財団法人日本中国国際教育交流協会は北京において、中国宋慶齡基金会・中国教育国際交流協会を訪問し、今後の共同プロジェクトについて協議し、双方の友好を確認しました。また今年10月10~16日に予定されている訪中団の受入れを快諾していただきました。協会からは山中正和常務理事、加藤良輔常務理事、初岡昌一郎理事が参加しました。



左から初岡理事、加藤常務理事、林常務理事、山中常務理事

過去20年近く教育交流を続けている中国教育国際交流協会からは、第15次訪中団の派遣に対し、快く招聘をいただきました。また、2010年10月12日、北京・中国教育国際交流協会会議室で、最近の教育事業を中国側、日本側それぞれから報告することで合意しました。また、協会設立20周年には、参加する意向が述べられました。会談には、中国教育国際交流協会から林佐平常務理事、孫家寧アジア太平洋部副主任、張処員らが出席しました。

懇談の席上、林常務理事は、「中国の子どもは、3000字もの漢字を習得する必要があるため、初期の教育は話し言葉が中心になる。これに比べて日本の子どもは就学してまもなく文字を習得するので、書き言葉中心となっているのではないか。こうしたお互いの文化の特徴も、これからの交流

2007年に宋慶齡基金会との共同プロジェクトを開始して以来、協会は河北省易県の小中学校に机椅子・電子キーボードを寄贈し、教育支援を行ってきました。2008年10月には第14次訪中団が、易県小学校を訪問し、授業交流、教育交流を深めてきました。二回の支援で、電子キーボードは、ほぼこの地域の小学校に最低一台は配置されたこととなります。また、電子キーボードを使っての音楽教師養成セミナーを昨年初めて実施しました。ハードばかりでないソフトの支援は、各界から注目されています。

今回の会談では、中国側から、第15次訪中団を歓迎する意向を表明すると共に、昨年からは実施している「音楽教師養成セミナー」の内容の充実と拡大、机椅子の継続的支援、中日音楽教師の交流が要望されました。協会側は、2010年度の「音楽教師養成セミナー」の充実への支援を行う、また音楽教師交流については、20周年記念行事関連事業として前向きに検討すると応えました。

宋慶齡基金会からは、李曉峰基金部副主任(中国側プロジェクト責任者)ほか、馬基金部副処長、吳処員、劉穎連絡部処員らが出席しました。



胡啓立主席(右から3人目)を囲んで

会談後、胡啓立主席招待の歓迎宴が開かれました。席上胡主席は、「先生方の決して高くない給料からこのような大きな支援を頂き感謝している。」と述べ

ました。また、開会中の全国人民代表者会議に触れ、「今、中国は3つの重要な課題を抱えている。一つは腐敗の問題、もうひとつは沿岸部と内陸部の発展の不均衡、さらに都市戸籍と農村戸籍の不公平の問題だ」と現状を率直に語られました。

## 未来を拓く教育交流を！

### ・・・新理事長に黒田文男氏

段容鋒・吉首大学

3月16日開催された理事会において、黒田文男氏が第3代理事長に選出されました。黒田新理事長は常務理事、理事として長年協会活動に尽力してこられました。

新たに選出された理事、監事、評議員は次の方々です。

理事長：黒田文男、常任理事：山中正和、吉田一徳、理事：赤岡直人、植地英志、加藤良輔、初岡昌一郎、前嶋徳男、渡辺泓美(以上理事9名)、監事：祝迫規之、細井篤志、丸光昭(以上3名)、評議員：大山恭平、加賀幸一、坂野修一、清水秀行、中嶋滋、平根浩次、別所勝也、山中小白、山内真司(以上9名)(敬称略)

退任された方々：生井榮一(理事長)、上田京子、菊池松七、輿石東、堀口肇(以上理事)佐久間忠夫(以上監事)、高野富二男、真下治之、木澤康男、川角恒、芹沢秀行、加藤典男、小泉徳朗、渡辺大輔、中村武志、岡本政則、赤池浩章、松島裕子、野川孝三、永見裕、石川貢彦、鎌田正裕、北村典子、須永謙治、竹川和彦、福田博長(以上評議員)(敬称略)

退任された皆様のご努力に心から感謝申し上げます。顧問につきましては、6月の機関会議で決定されます。

また、3月11日、評議員選定委員会が開催され、評議員候補が選定されました。委員として、吉峯啓晴(弁護士)、荒木重雄(桜美林大学名誉教授)、段躍中(日中交流研究所所長)、丸光昭(監事)、吉田一徳(評議員)の各氏が選考に当たりました。

## 第5回中国人の日本語作文コンクール

### 教育賞は段容鋒さん、黄海萍さんに

第5回中国人の日本語作文コンクール(日中交流研究所主催)の授賞式が12月12日、中国青島で行われました。今回のテーマは、中国の改革開放への日本人と日本企業の社会貢献、在中日本人及び日本人旅行者への手紙、でした。応募総数は、1393本。最優秀賞(日本大使館賞)には、副賞として日本一週間招待が贈られました。教育賞(財団法人日本中国国際教育交流協会賞)は、学生の部・段容鋒さん(吉首大学)、社会人の部・黄海萍さん(長沙明照日本語修学院)に、協会からそれぞれ5万円相当の賞品が贈られました。

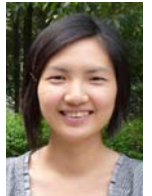
以下、段容鋒さんの作文の一部を紹介します。



黄海萍さん

中国にいらっしやったことがある日本のみな様へ中国に対する印象はどうでしょうか。

わたしは家族と一緒に高級料理店でお客様を招待したことがあります。毎回目の前にいっぱい残された料理をもったいないと惜しんでいました。でも、それはしようがないことです。そうしなければ相手はきっと自分が軽視されていると誤解し、気分



を害してしまうでしょう。これが中国人の考えです。おかしいと思われるかもしれませんが、それこそ中国人の純朴と情熱的な性格の表れだと言っても過言ではないでしょう。

ある友達はこのような話をしました。「片思いじゃ恋とは呼べない、日本と中国もそうです。」その説明を求めると、こう言うてくれました。「愛情も、中日関係も、相手のことを考えずに、ただ自分の考えを押しつけて相手に理解してもらおうとするだけでは、何にもならない。」本当にそうです。中国と日本はまだ十分理解し合っていないから、もめごとが起こるのではないのでしょうか。

(以下略)

なお受賞作は、第5回中国人の日本語作文コンクール受賞作品集『中国への日本人の貢献—中国人は日系企業をどう見ているのか』(段躍中編/日本僑報社発行)に収録されています。購読希望の方は、協会事務局までご連絡ください。

## 第15次訪中団募集

- ★日 時 2010年10月10日(日)～16日(土)  
(10日は羽田前泊)
- ★訪問地 北京、河北省易県
- ★受入先 中国教育国際交流協会  
中国宋慶齡基金会、河北省易県文教局
- ★交流内容 学校訪問、教育事情交流集会(北京)  
易県小学校訪問交流
- ★費用 30万円程度(予定)
- ★募集人員 20名程度
- ★応募資格 教育関係者
- ★応募締切 6月10日(必着)
- 都合により、訪問地・内容、費用が変更になる場合がありますので、ご了承ください。
- 詳細は協会までお問合せください。